

2023年冬 kmp事業報告書

2024年2月2日

湘南自治会

文責:栗原凜香

第1章 事業報告

1.概要

SFCでは、研究会の情報を得るための公の説明会等が行われていない。経済学部を例にとると、ゼミ説明会が開かれており、学年の早い時期からゼミとはどういうものなのか、各ゼミによる紹介から雰囲気や研究内容等を知ることが可能である。他学部に比べてSFCは特に多様な研究会が存在し、それがSFCの比類なき特色である一方、多様であるあまり、どのような研究会があるか、全体像を把握しきれないのが現状である。また、現状では研究会紹介が分断されており、学際的な研究を売りにしているSFCだが、学生が横断的に研究会の情報を得る場がない。さらに、研究会は卒業に関わる大変重要なものにも拘らず、学生が独力で自分の興味分野に即した研究会を探すのは容易とは言えない状況である。また、前回の新歓ではゼミ生とゲストとの関係構築が行われると共に意見交換から新しい発想を得るなど双方によっても利益がもたらされる場であると認識した。研究会について横断的に情報を得る場、SFC生の研究会決定に役立つ場を提供し、ひいてはSFCの学問・研究活動の活性化を図るために、「一斉研究会新歓」事業を開催した。

事業開始:2022年4月18日

事業終了:2024年2月2日

2.目的

現状ではSFCにおいて研究会紹介は分断されており、学際的な研究を売りにしているSFCだが、学生が横断的に研究会の情報を得る場がない。さらに、研究会は卒業に関わる大変重要なものにも拘らず、学生が独力で自分の興味分野に即した研究会を探すのは容易とは言えない状況である。研究会について横断的に情報を得る場、SFC生の研究会決定に役立つ場を提供し、ひいてはSFCの学問・研究活動の活性化を図る。

3.事業の詳細

名称:研究会新歓2023冬

日時:2024年1月11日(木)、12日(金) 18:15~20:00

会場:ε 11、ε 12で実施。また、両日Zoomでの対応も行った。

参加研究会

[一日目(1/11)]13研究会

- アラブ文化研究会
- アキル・シャッターデイ研究会
- 秋山美紀研究会
- 篠原研究会
- 保田研究会
- マンスール研究会
- 野中葉研究会ムスリム共生プロジェクト
- 先端生命科学合同研究会
- 島津明人研究会
- 清水唯一朗研究会(オーラルヒストリー研究会)
- 清水唯一朗研究会(日本政治外交研究)
- Urban Fabrication Lab
- 国際安全保障とグローバルガバナンス (International Security and Global Governance Seminar)

[二日目(1/12)]14研究会

- アラブ文化研究会
- 秋山美紀研究会
- 篠原研究会
- 保田研究会
- 長谷部葉子研究会
- 小林博人研究会
- 野中葉研究会ムスリム共生プロジェクト
- 先端生命科学合同研究会
- 島津明人研究会
- 武田圭史研究会
- 清水唯一朗研究会(オーラルヒストリー研究会)
- 井庭崇研究会
- 加藤文俊研究会
- 馬場わかな研究会(ドイツ語圏地域研究)

4.運営体制

準備段階の役割分担

- 全体統轄
- 渉外
- 広報戦略

当日役割分担

- 全体統轄
- 受付
- 遊撃
- 広報

5.事業のタイムライン

11/4 研究会新歓についての企画案考案開始

11/9 日程等について団体内で検討し、二日間開催することを決定

11/20 企画書完成。その後のタイムスケジュール等を作成。学事からの許可が出たため、本格始動。12/8 研究会募集のためのフォーム作成完了。参加研究会募集のメールを各研究会宛に送信。また、個人的なつながりでの参加募集もおこなう。

12/12 学生募集のSNS投稿開始。

12/27 研究会募集締め切り。19研究会の出展がこの時点で決定。

7/13 当日使用する教室と控えの教室について決定、予約。

7/17 各研究会の教室割りについて決定。画像を作成。

7/18 この時点で、学生用参加応募フォーム回答数が50人を突破。(尚今回は、傘下に当たってフォームの回答を義務付けていない)当日運営マニュアルを作成。

7/19, 20 当日

6.財務

ポスター印刷代

第2章 事後評価

1.目標の達成に関する評価

当初、企画書で想定していた人数(140)よりも多くの学生が参加し、1日目約80人、2日目約70人計約150人の来場者数があった。また、前回開催時は15研究会に参加して頂いたが、今

回は計19研究会に参加いただき、学生がより多くの研究会を一堂に検討できる場となった。研究会側からの声としては、多くの研究会が「自分たちが思っていた以上に学生たちが参加した」という声があった。この背景として、この2023年冬に行った研究会新歓は、第4回目であり、回数を重ねることで徐々にSFC生への知名度が上がってきたのではないかと考える。また、参加研究会側に比較的SFCで学生に良く知られている研究会が参加してくれていたことが、集客の要因となっていたと考える。

参加者が記入した感想フォームによると、記入してくれた学生の内84%がこのイベントに満足しており、「シラバスを見るだけでは分からない情報や、実際の雰囲気を知ることができる貴重な機会だった」という回答があった。また、満足しなかった理由としては、「興味のある研究会が参加していない」若しくは、「学生以外の話が聞きたかった」という回答があった。

全体的な評価としては、前回と比較して二倍近くの研究会に参加して頂き、また参加者数も100人を突破したことから、より多くの学生により多くの研究会の情報を得る場を提供できたといえるだろう。しかしSFCの研究会はまだ数多く存在しており、今後も更に多くの研究会及び学生に参加して頂けるような運営をしていく必要がある。

2.運営に関する評価

対面での運営

想定以上の来場があり、かなりの人が一つの教室にいて移動し難い状況があった。しかし、当日使用した教室は、Ω、Θを除く教室の中で最大級の大きさだった事に加え、通りがかった学生の目にも止まるような教室を選んだ結果のため、次回も教室選びは慎重に行う必要がある。また、今回の参加者で杖をついていた学生がいたため、そのような学生にも不便がないようにバリアフリーにも次回は気を配る必要がある。

運営は、湘南自治会約7名、AIS若干名、湘南学祭実行委員会若干名で行った。湘南自治会はイベントの設計をした主担当として会場のマネジメントを行い、湘南学祭実行委員会若干名は、会場管理のサポートを行った。AISはGIGA生の来場者のサポートを行った。湘南自治会だけでなく、様々なサポート要員がいたことで、設営及び撤収をスムーズに行うことができた。今回で3回目という事もあり、回数を重ねるごとにマネジメントの知見がたまっているため今後もそれを活かしていきたい。

オンライン上での運営

当イベントでは、出展研究会には対面での対応と同時に、湘南自治会が用意したzoomにも入室し、その両方で説明対応をする形態とした。今回は、前回の反省を活かし、オンライン対応に十分な数のスタッフを配置させた。オンラインで参加する学生は少ないが、参加した学生には十分な対応ができる体制を構築できた。

第3章 引継ぎと改善提案

<<ポイント>>

- 今後この事業を担当する者、あるいは自治会事務局全体でのノウハウ共有のため、事業評価で改善すべきと示された事柄については、具体的にどのような改善が必要かを記すべきである。
- こちらも、企画の目的・ターゲットなど企画それ自体の改善点と、オペレーション上の改善点は分けてまとめるべきである。

1.改善点と今後に向けた提案

- 教室の規模と予想来場人数の折り合いをつける
- 教室のバリアフリーに配慮する
- 教室の設営について計画を詰める
- フィードバックフォームの回収率を向上させる
- より多くの研究会による出展を募り、分野横断性を確保する
- 裨益者である学生へのアウトリーチを強化し、支援を要する者に必ず届く体制の構築を目指す
- 出展研究会側の負担や事業効果の実体感について追調査を行い、最適化を図る
-